

2019 年台風 19 号町田市保育所対応実態アンケート調査集計結果

2020/03/09 (集計分析：首都大学東京都市防災・災害復興研究室)

1. 台風 19 号の気象特性と町田での被害

2019 年 10 月の台風 19 号は全国広域に被害をもたらした。全国で死者 86 名，行方不明者 3 名，また住家全壊 3,247 棟，半壊 27,926 棟，一部破損 33,222 棟，床上浸水 7,378 棟，床下浸水 22,104 棟と報告されている。

町田市においても，気象庁八王子観測所において，10/12(土)21:30 までに期間総降水量 427.0mm，24h 雨量 409.0mm，また時間最大雨量 47.0mm (10/12 土 19:44 ~ 20:43)，最大瞬間風速 25.5m/s (10/12 土 21:21) を記録し，住家について一部損壊 1 棟，床下浸水 3 棟の被害が生じた。また後述するように鉄道の計画運休と町田市内全域に避難勧告が発令され，3,085 人の市民が避難所へ避難した。

台風 19 号接近に関する災害情報発令等の経緯を表 1 に示す。

台風 19 号への対応として，町田市内の保育所等でも休園措置がなされた。その実態を把握するため，町田市保育・幼稚園課から，市内 137 園に対して調査票調査を依頼し，112 園から回答を得た (認可保育所 64 園，小規模保育所 13 園，家庭的保育者 12 園，こども園 10 園，幼稚園 13 園)。以下，寄せられた回答の集計結果と防災ガイドライン作業部会アドバイザーとしての考察を述べる。なお運営法人との関係で票数としては 110 通となった。

表 1 台風 19 号接近に関する災害情報発令等の経緯

| 日時 | 気象情報 (気象庁) | 避難情報等 (市役所) | 交通機関の運休 |
|--------------|---|--|--|
| 10/06 | 南鳥島で台風発生 | | |
| 10/07 (木) | 大型で猛烈な台風に 16:00 東京管区気象台 台風情報 1 号 | | |
| 10/11 (金) | 15:45 大雨注意報 16:00 東京管区気象台 記者会見 | 15:00 市立保育所休園決定 17:00 避難準備 (川沿い，ガケ地等) | 10:45 JR 東日本運休を公表 11:00 小田急線運休を公表 |
| 10/12 (土) | 04:14 大雨警報 06:31 洪水警報 12:13 暴風警報 12:37 大雨警戒 (土砂災害) 15:30 大雨特別警報 (土砂災害) 21:40 境川氾濫危険水位に到達 | 09:00 避難勧告 (川沿い，ガケ地等) 16:30 災害発生情報 (市内全域) | 11:00 横浜線全線運休 12:00 小田急線全線運休 12:19 東急田園都市線全線運休 |

2. 台風 19 号による園施設の被害状況

| | 回答数 | 割合 |
|----------|-----|-------|
| 物的被害【有り】 | 28 | 25.5% |
| 物的被害【無し】 | 82 | 74.5% |

物的被害の内訳

| | 回答数 | 割合 |
|--------------|-----|-------|
| 1. 建物浸水 | 3 | 2.7% |
| 2. 雨漏り | 11 | 10.0% |
| 3. 遊具の転倒・損壊 | 1 | 0.9% |
| 4. 建物外壁損壊 | 1 | 0.9% |
| 5. 窓ガラス破損 | 1 | 0.9% |
| 6. 屋根の損壊 | 1 | 0.9% |
| 7. 樹木の枝折れ，倒木 | 4 | 3.6% |
| 8. 塀や門扉の損壊 | 2 | 1.8% |
| 9. その他 | 3 | 2.7% |

記載のあった被害事項

- ・園庭にある防災倉庫が床上浸水 20cm.
- ・園庭の小型遊具 (乳児用の象型の滑り台) が杭で固定してあるのにも関わらず横倒しになっていた。
- ・2 階テラス門扉金具のゆがみ
- ・テラス窓ガラスの破損 1 箇所.
- ・園庭の土が流れた。
- ・サッシの間から浸水しやすいので，養生テープを事前に貼り，大丈夫だった。
- ・屋外通路にあるプランターと植木鉢の転倒。
- ・職員駐車場の出入りに土砂が流出した
- ・遊戯室と保育室のサッシから浸水で床上 5 cm .
- ・テラス屋根損壊

3. 休園判断について (N=110)

| | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 1. 休園 | 65 | 59.1% |
| 2. 部分開園 | 5 | 4.5% |
| 3. 結果的に保育ゼロ | 13 | 11.8% |
| 4. 土曜日は保育休園 | 27 | 24.5% |
| 合計 | 110 | 100.0% |

4. 休園・部分開園の決定者

| | 回答数 | 割合 |
|---------|-----|-------|
| 1. 理事長 | 39 | 51.3% |
| 2. 施設長 | 58 | 76.3% |
| 3. 法人本部 | 14 | 18.4% |

複数回答設問。割合は無回答 34 園を除いた N=76 で算出。

5. 消防士や医療従事者等、保育が不可欠な世帯有無

| | 回答数 | 割合 |
|-----------------|-----|-------|
| 1. 保育不可欠な世帯【有り】 | 10 | 12.5% |
| 2. 保育不可欠な世帯【無し】 | 70 | 87.5% |

割合は無回答 30 園を除いた N=80 で算出

6. 休園可能性の保護者への連絡手段

| | 回答数 | 割合 |
|------------------|-----|-------|
| 1. 電子メール, SNS | 42 | 59.1% |
| 2. 電話 | 9 | 12.7% |
| 3. 園内掲示 (HP も含む) | 22 | 31.0% |
| 4. 送迎時に直接伝達 | 19 | 26.8% |
| 5. 書面 | 14 | 19.7% |

複数回答設問。割合は無回答 39 園を除いた N=71 で算出 (無回答には「事前連絡をしていない」園も含まれる)。

7. 休園可能性伝達および休園決定日時

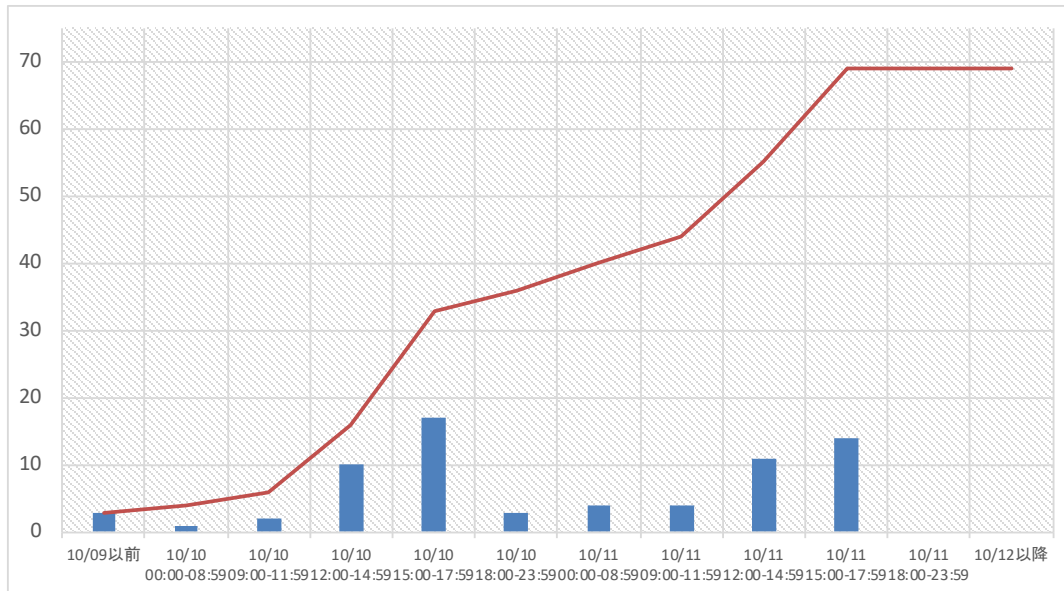


図 休園可能性を保護者に伝えた時期

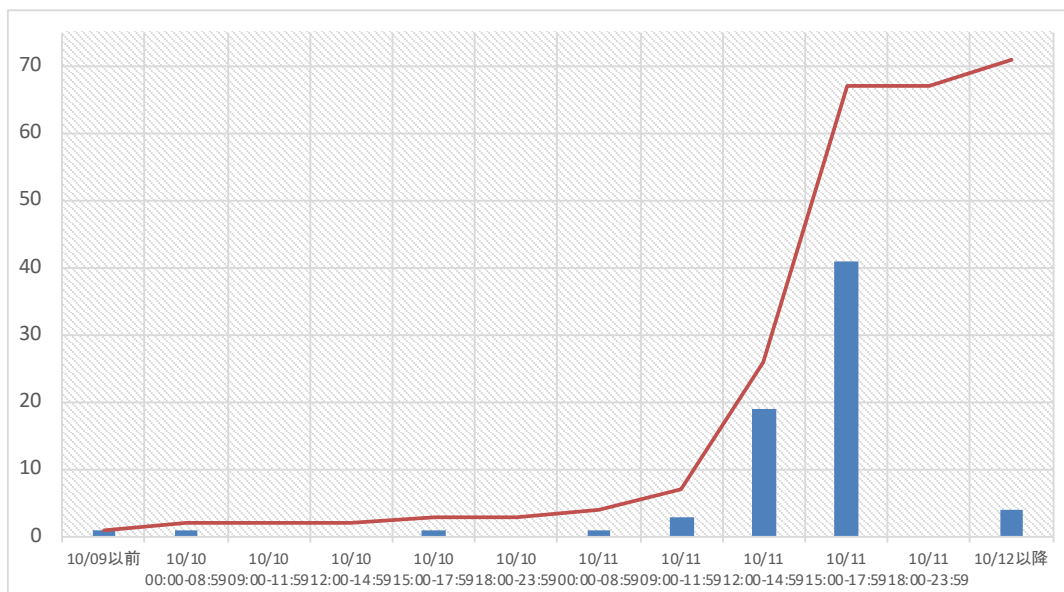


図 休園決定時期

8. 休園・部分開園の判断材料となった災害情報等

| | 回答数 | 割合 |
|-------------------------|-----|-------|
| 1. 気象情報（大雨警報，土砂災害特別警報等） | 55 | 69.6% |
| 2. 警戒レベル | 24 | 30.4% |
| 3. 市からの避難情報（避難準備，避難勧告） | 6 | 7.6% |
| 4. 公立保育所休園 | 51 | 64.6% |
| 5. 園児の登園見込み | 26 | 32.9% |
| 6. 鉄道の計画運休発表 | 50 | 63.3% |
| 7. 園近隣の河川水位 | 6 | 7.6% |
| 8. 風雨の体感 | 1 | 1.3% |
| 9. その他 | 10 | 12.7% |

複数回答設問。無回答を除き N=79 で割合算出

9. 休園可能性連絡時の保護者からの反応（自由記述）

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・とても協力的に理解いただけました（複数記載）。 ・みなさん協力手的でこちらからお話する前に仕事の手配を済ませている方が多かったです ・休園はやむなしといった反応 ・やむを得ないと感じている保護者が多く、またはっきりと決まって安心だ、仕事も休みやすいとの声が多かった。 ・様子を見て休めそうであれば欠席する。職場に相談してみる。 ・園が休園となるなら、かえって休みの届を出しやすいとされた。 ・今回の台風の大変さは、報道されていたので、「今日から祖父母宅に預けます」という家庭があったり、職場が休みになりました等がほとんどでした。最後まで、少し困っていた保護者は、介護の方でしたが前日、お休みが決まって、保育無しになりました。 ・登園自粛のお願いを行い、どうしてもお休みできない場合は申し出る旨をメール配信し、2家庭4名の保育希望者があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席予定の保護者に向けての連絡をしたが、休園の可能性の時点で全員欠席の返事が来た。 ・「土曜日でよかったです」話していた。土曜日の登園児は少ない。電車運休を受け、「仕事が休みになったので子どもも休みます」と利用者全員から連絡。 ・JR、小田急の計画運休発表後、「仕方がないですよ〜」と全員の協力を得、翌土曜保育は休園に。 ・3段階（お手紙・メール・各クラスからの声かけ） ・休園の可能性もあるかもしれない。と口頭でお伝えしほとんどの保護者の方が納得してくれたが、最後のお迎えの方がお休みは無理と言われてしまった。 ・家庭保育を検討してくださり、父親か母親で見るとどの家庭も対応に応じてくれました。1家庭は台風の影響で勤務がなくなったとの連絡が前日にありました。 ・「調整かけないといけないので開園するのか早く知りたい」という方もいた。 |
|--|--|

10. 休園決定連絡時の保護者からの反応（自由記述）

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・園の判断に理解を示してくれた ・皆さん理解してくださいました。翌日は土曜日だったので、土曜日登園予定の保護者に直接声掛けをしていきました。19号に関しては事前にかかなり危険であるとの報道もあり、どの園児が登園するかをあらかじめ確定していました。今回は保護者も警戒し、鉄道も運休になることになっていたの、ほぼ皆さんお休みになったとのことでした。 ・前々日（10/10（木））に10/12（土）の保育について休園の可能性もある旨は各ご家庭に伝えていたので大きな混乱や、苦情等はなかった。 ・ほとんど反応なかったが、休園の判断で正解だと思うという意見有り ・子どもの安全が、第一ですよ、と皆さん理解して下さっていました。 ・公立保育園に準じて休園することを伝えた為、快くご理解・ご協力いただきました。 | <ul style="list-style-type: none"> ・当日登園希望者は9名。保護者からの休園連絡1名、園からの連絡により残り全員のお休み確認が取れ、9時頃に休園。 ・開園時間を7:00～18:00と設定した。「そうですねー」と納得される家庭が多かった。 ・保育園では開園するが休める方にはできるだけ休みを勧める。来る方にも交通機関が動かなくなるのでできるだけお昼までの降園を勧める。9名が保育を希望された。最終の方は迎え予定時間は分からないと答えていた ・11日朝から、いつも土曜登園のお子さま以外の方も含め全園児に一人ずつ声かけをして、全員登園しないことを確認したので、要望も苦情もなく「先生方も出勤が大変ですよ。」と声をかけて下さる保護者が多くいました。 ・介護施設職員で午前中の保育をお願いされた |
|---|---|

11. 市役所からの災害情報の「わかりやすさ」

| | 回答数 | 割合 |
|-----------------|-----|-------|
| 1. わかりやすかった | 67 | 76.1% |
| 2. 判断材料の一部にはなった | 2 | 2.3% |
| 3. どちらとも言えない | 4 | 4.5% |
| 4. わかりにくかった | 15 | 17.0% |

割合は無回答 22 園を除いた N=88 で算出。

12. 計画運休の休園判断と保護者理解への影響

| | 回答数 | 割合 |
|---------------|-----|-------|
| 1. 理解を得やすくなった | 68 | 87.2% |
| 2. 特に変わらなかった | 10 | 12.8% |

割合は無回答 32 園を除いた N=78 で算出。

13. 公立保育所休園の判断公表時期について

| | 回答数 | 割合 |
|------------------------|-----|-------|
| 1. 早すぎた | 1 | 1.0% |
| 2. 適切 | 39 | 40.2% |
| 3. 遅かった | 44 | 45.4% |
| 4. 「休園検討中」の段階で情報が欲しかった | 3 | 3.1% |
| 5. 当時は認知してなかった | 3 | 3.1% |
| 6. その他 | 7 | 7.2% |

割合は無回答 13 園を除いた N=97 で算出。

14. 自由記述意見（主なもの）

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・認可保育園はいかなる場合も休園をしてはいけないという認識だった。 ・台風など、予測できる災害時は、保育園も休園という判断が必要だと思います。 ・警戒レベル 4 や 5 が出たときには「園は休園やむなし」の判断基準があると助かる。 ・計画運休が発表されているのであれば、「休園」と町田市でも判断し早めに各園に通知していただいてもよいと思う。保護者の方も電車の運休があれば職場への通勤経路がなくなることで、出勤したところでその場所が安全だとは限らないので保護者の安全確保も重要である。「特別警報」が出される時には「休園」の判断でよいと思う。 ・ご家庭によってはどうしても保育が必要な家庭がある。出きれば年末保育のように公立がしてくれると助かる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難情報が発令されてからの休園判断では遅い。 ・計画運休や公立園の対応等、判断材料になる情報が不可欠。東日本大震災の時、激しい余震の中、休園を許されなかったことを思い返すと各園対応とはいえ休園を認めてもらえたことは園児・職員を守る立場として助かった。 ・公共施設の中に、災害時、いつでも保育室として対応出来る機能を用意してもらえるとよいのではと思う。小さな園が混在する中で、公共施設や学校に最終的に避難することが出来る対策を考慮してもらいたい。 ・今後は、計画運休が決まった時点で公立保育園も休園にしても良いのではないのでしょうか。 ・園の個別判断だと、保護者の不満がでてくるのでは？（こちらの園は開所しているのに、なぜこちらは休園なのか） |
|---|---|

15. 全体を通しての考察

アンケート調査票調査結果をもとに台風 19 号来襲時の町田市の保育所等での休園対応実態について考察しておこう。

まず台風 19 号による被害として、25%の園で雨漏りや倒木といった物的被害が生じたが、外水洪水による浸水や土砂災害には至っていない。そして「休園した」と回答した園は 60%であったが、土曜日はそもそも保育なしの園、前日までに保護者と意思疎通を図り結果的に保育ゼロ、も含めれば、95%の園で休園措置がとられていた。

休園決定に至る前にほとんどの園で「休園可能性」を保護者に伝えていた。休園日となった 10/12 の 2 日前の 10/10(木) 夕方のお迎えまでに半数の園で、前日 10/11 の午前までに 65%の園で伝達している。休園可能性の伝達には、電子メール（や SNS）が 60%、園内提示 31%、送迎時に直接口頭で 27% 等となっていた。

休園正式決定は多くが 10/11(金)の午後以降、すなわち鉄道機関の運休アナウンスを経て、となっており、また計画運休により休園による理解を得やすくなった、と感じている園は 90%弱に達している。

休園可能性の伝達含めた休園措置の判断材料としては、気象情報 70%、公立保育園の休園 65%、鉄道計画運休 63% 等となっている。市役所からの避難行動情報を待っての判断とはなっていない。また園近隣の河川水位を判断材料の 1 つと回答した園が 7.6%あり、園として自ら洪水の可能性について情報収集をおこなっていたことは特記すべきであろう。

台風 19 号に対して 95%の園で休園措置が執られ、正式決定以前に休園可能性を保護者に伝え、家庭保育への相談をしていたこと、準備・判断にあたってはテレビ等からの気象情報が重要で、鉄道計画運休アナウンスも決め手となったこと、一方で休園にあたっては、保育が不可欠な消防や医療福祉職の保護者の理解と調整は不可避であり、園と保護者の日常時からのリスク・コミュニケーションが重要であること、加えて市内で代替園を開設するなど、臨時代替保育の確保も求められよう。そしてこれらの対策を進める上でも、市と園による防災ガイドライン策定等の取組みは継続し、町田市として課題解決を図っていく必要があると思われる。